審 査 結 果 の 要 旨

報告番号	乙 第 2771 号	氏名	むらいし かずひさ 村石 和久
審査担当者	主 査	星野及昭 (印)	
	副主査	桑野剛一 (印)	
	副主査	佐田通夫 (印)	

主論文題目：

Classification and characteristics of interferon-related diabetes mellitus in japan(日本でのインターフェロン投与に関連した糖尿病の分類および特性)

審査結果の要旨（意見）

インターフェロンはC型肝炎の最も有効な治療薬であるが，細胞性免疫を活性化し，ときに1型糖尿病を誘発することが知られている。また，サイトカイン分泌の増加によるインスリン抵抗性を介して，2型糖尿病様の高血糖を引き起こしうる。本論文は本邦における報告を，自験例ならびに既報の論文，学会報告をもとに集計し，記載が不十分な事項は追加調査することにより，インターフェロン関連糖尿病の特徴を明らかにしたものである。本研究により，近年のインターフェロン治療の強化が1型糖尿病の増加と関連していることが示唆された。インターフェロン治療を行うC型肝炎症例の1型糖尿病の発症予測や早期治療のためのGAD抗体測定およびHLA解析の有用性を示唆するなど臨床的意義が高い。

論文要旨

インターフェロン(IFN)はC型肝炎の治療薬として広く用いられているが、投与中あるいは投与後に糖尿病発症をみることがある。私どもはIFN投与に関連する糖尿病を4症例経験した。そこで、本邦で報告されたIFN投与に関連する糖尿病を、医学中央雑誌およびPubMedで検索し、データが不十分な症例は発表者に問い合わせ、治療内容および糖尿病の病態を検討した。解析可能な症例は自験例を含めて143例であった。そのうち104例は1型糖尿病、39例は2型糖尿病様の病態を示した。IFNに関連した1型糖尿病の報告数は過去3年間に大幅に増加していたが，2型糖尿病様症例の報告は増加していなかった。1型糖尿病はPEG-IFN/ribavirin併用療法を行った症例が多く、GAD抗体陽性率が高く、そのHLA ClassⅡは通常の日本人1型糖尿病患者と同様にDR4，DR9が多かった。糖尿病発症年齢は両病型で差がなかったが、2型糖尿病様の症例は男性が多く、IFN投与開始から糖尿病発症までの期間が短かった。IFN投与に関連した1型糖尿病の発症を予測するには、GAD抗体測定およびHLA型判定が有用と考えられた。